

2025年度 年度計画	実績報告
<p>1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>1.1 教育に関する事項</p> <p>(1) 入学者の確保</p> <p>①-1</p> <p>I. 本校および県内のさまざまな地域において学校説明会を実施する。さらにキャンパスツアー、一日体験入学など、実施形態を変えながら本校を知ってもらう機会を設ける。また、高専機構が主催する高専FES(東京会場)へ参加する。これらイベントを通じて高専や本校のPRを行う。なお、これらの活動は広報戦略室と連携しながら実施する。</p> <p>II. 本校で行われる大学等進学説明会にて専攻科の説明を行い、専攻科入学者の確保に努める。</p> <p>III. 改修したホームページの運用を開始しており、引き続き入学希望者向けのコンテンツの充実を図る。近隣市町村の小中学校および教育委員会とクラブ活動や放課後子ども教室、出前授業を通して高専の魅力を発信する。講師は高専学生が講師役を務める機会を増やし、児童、生徒、教諭、保護者に高専生を直接見てもらう機会を増やす。</p> <p>①-2</p> <p>県内のさまざまな地域において学校説明会を実施し本校の特色のPRや、入試制度の説明を行う。また、キャンパスツアーや一日体験入学を実施し、各専門の教育設備を活かした授業や実験を中学生に体験してもらう。</p> <p>①-3</p> <p>地元の教育委員会と連携し、プログラミング教育や学童での科学体験など、小中学校・小中学生を対象とした高専学生が講師を務める早期STEM教育の取組みを実施し、高専の魅力を発信する。</p> <p>②-1</p> <p>昨年に引き続き、高専GCON事務局と茨城高専のパイプ役となり、学内への情報共有・参加チームのサポートを通して積極的な参加の機運を醸成する。山田進太郎財団後援によるGirls Meet STEM Kosenプログラムに参画し、特に女子中学生のSTEM教育の推進を図ることで女子学生の確保に繋げる。</p> <p>②-2</p> <p>I. 留学生の受け入れを積極的に行い、国際性豊かなキャンパス作りを目指す。これによって、オンキャンパスでのさまざまな活動を企画実施し、学生達のグローバルマインド涵養に取り組み。さらに、在籍する留学生を母国以外の海外研修にも積極的に参加させ、多国籍でより国際的な感覚を養えるような教育に取り組む。</p>	<p>I. 学校および入試の説明と、卒業生・在校生による学校紹介を主とする学校説明会を、日立(7/12)、本校(7/13)、つくば(7/19)、土浦(8/9)の各会場で実施した。(8/2にも本校会場での実施を予定していたが、台風による荒天の影響を考慮して中止した。)なお本校会場では、校内自由見学、学校食堂体験、寮の見学、個別相談も実施した。また、模擬授業・模擬実験の体験、部活動体験、等を主とする一日体験入学を9/28に実施した。さらに今年度は新たに、各系の研究面での特徴・魅力を伝えるキャンパスツアーを7/5に実施した。機構主催のKOSEN FES東京会場(6/15)に参加した。地域のNPO法人が主催する学校説明会(6/22ひたちなか)・進学フェア(8/3日立、9/28水戸、10/5つくば)にも参加した。今後、公立中学校が休校日となる茨城県民の日(11/13)に秋の学校説明会を実施した。これらのPR活動は広報戦略室と連携しながら実施した。</p> <p>II. 12月20日に本校で行われた大学等進学説明会にて専攻科の説明を行い、専攻科入学者の確保に努めた。来年度も引き続き実施することで専攻科入学者の確保に努める。</p> <p>III. 本校ホームページおよびSNSを通じた本校紹介コンテンツの発信を継続的に進めてきた。また、以下のイベントを通じて、学生とともに本校のPR活動を行った。 J-PARC・原子力科学研究所 施設公開2025(8/23)、Lake and Peace 2025(越谷レイクタウン)(10/4,5)、道の駅日立立おさかなセンター 旬漁祭(10/26)、青少年のための科学の祭典ひたちなか大会(11/1,2)、さんふらわあ号宿泊体験学習(大洗港)(11/16)、水戸生涯学習センタープロジェクトマップ(12/7)、スーパーサイエンスキャラバン@まちかど(イオンモール小山)(3/20)、茨城高専アンビサイエンス(イースつくば)(3/28)</p> <p>学校および入試の説明と、卒業生・在校生による学校紹介を主とする学校説明会を、日立(7/12)、本校(7/13)、つくば(7/19)、土浦(8/9)の各会場で実施した。(8/2にも本校会場での実施を予定していたが、台風による荒天の影響を考慮して中止した。)なお本校会場では、校内自由見学、学校食堂体験、寮の見学、個別相談も実施した。また、模擬授業・模擬実験の体験、部活動体験、等を主とする一日体験入学を9/28に実施した。さらに今年度は新たに、各系の研究面での特徴・魅力を伝えるキャンパスツアーを7/5に実施した。機構主催のKOSEN FES東京会場(6/15)に参加した。地域のNPO法人が主催する学校説明会(6/22ひたちなか)・進学フェア(8/3日立、9/28水戸、10/5つくば)にも参加した。今後、公立中学校が休校日となる茨城県民の日(11/13)に秋の学校説明会を実施した。(再掲)</p> <p>地元の教育委員会と情報交換を行い、小中学生を対象とした科学体験やプログラミング教育等の取り組みを実施し、高専の魅力を伝える取り組みを実施した。 「ひたちなかキャリア探検ラリー」LED実験体験やクイズなどを実施し、市内の小中学生19名が参加(連携：ひたちなか市教育委員会と連携、8月23日、茨城高専) 「ほっとステーション事業」大型フェリーさんふらわあ船内にて科学実験体験イベントを実施し、小中学生と保護者40名が参加(連携：県内11市町村教育委員会、11月16日、大洗港) 「大洗サイエンスカレッジ」：液体窒素を使った科学実験体験などを実施し、小中学生と保護者20名が参加、11月29日、茨城高専) 「理科授業支援」：大洗南中学校3年生の理科授業への支援として、半導体についての講義とセンサーライト回路製作実験を高専の実験室で実施、33名の生徒が参加、12月16日、茨城高専) 「大洗うみまちコミュニティスクール学校運営協議会」大洗町の小中学校の教員と教育委員会職員との意見交換・熟議を年間5回実施(スマイルホール大洗)</p> <p>2025年10月5日(日)に山田進太郎財団後援による理系体験イベント「Mirai Girls Lab～未来をのぞく理系体験～」を開催した。本イベントでは、高専の研究室や学生生活に触れる機会を通じて、参加者の関心を高めることを目指した。イベント終了後アンケートでは、高専への興味・関心の平均値が参加前の4.67から参加後には4.83へと向上したほか、「高専ってすごく充実していて楽しそうだった」などの声が寄せられた。これにより、女子中学生の理系分野への夢や目標の形成、高専進学へのモチベーション向上に資する有意義な機会となった。</p> <p>留学生6名(モザンビーク、タイ、マレーシア、スリランカ、ラオス)の受け入れおよび当該学生への支援・指導を実施。学習面、生活面、キャリア支援指導を行った。</p> <p>9/6～9/13：グローバルキャンプ、10/5～10/31：タイ高専1ヶ月研修、それぞれを盛大かつ有意義に実施できた。</p> <p>9/1～9/3：日本語サマーキャンプ、12/15～12/19：TJSFそれぞれのプログラムで学生交流を深めることができた。</p> <p>今後はこれらのプログラムの充実化・深化を進めたい。</p>

2025年度 年度計画	実績報告
<p>Ⅱ. 改修したホームページの運用を開始しており、引き続き英語版ホームページの作成を広報戦略室は広報的立場からグローバル教育センターと協力する。</p>	<p>Ⅱ. 英語版ホームページについて適宜更新を行っている。また、グローバル教育センターと協力し、「KOSEN Global Camp 2024」および「タイ高専KOSEN-KMITLの研修生受け入れ」などの国際的な活動について発信を行った。</p>
<p>③-1 最寄り地等受験には引き続き参画する。 複数校志望受験制度、講座等の受講証明等を活用した入学者選抜については、他高専の状況を注視していく。</p>	<p>本校会場にて最寄り地等受験に参画した（募集要項に掲載済）。 複数校志望受験制度、講座等の受講証明等を活用した入学者選抜は、今のところ予定していないが、引き続き他高専の状況を注視していく。</p>
<p>③-2 障害がある受験生への配慮について、具体例をHPの入試情報サイトへ掲載する。</p>	<p>本校HPの入試情報のサイトへ、「入試における障がいに応じた合理的配慮の具体例」を掲載している。</p>
<p>(2) 教育課程の編成等</p>	
<p>①-1-1 Ⅰ. 学科再編、教育課程の見直し、専攻科の充実等について検討を進める。必要があれば機構本部へ相談する。 Ⅱ. 専攻科の充実を図るため、特例適用専攻科における特別研究Ⅱを指導可能な教員の追加申請を大学改革支援・学位授与機構に提出する。 Ⅲ. 海外インターンシップや海外語学研修の内容充実をはかる。そのために必要な海外教育機関との協定や、海外企業との連携などをすすめる。社会ニーズを踏まえた高度なエンジニア育成実現に向けて、より国際的な業務の企画・立案・実施を進めていく。現在すでに協定を結んでいる、フランス、韓国、マレーシアとの各教育機関とも連携し、相互の海外研修を進めているが、これらに加え包括協定先であるシンガポールやマレーシアの教育機関とも、交流事業プログラムを進めている。そこに現地企業（日本企業、JICA、JETRO含む）とのインターンシップなどのプロジェクトも導入することにより、より実践的なエンジニア育成を目指す。アントレプレナーシップに関連しては、トピタテの申請の促しとともに申請時における啓蒙や指導サポートを行うと共に、海外でのディベートやプレゼンテーションの準備、および企業訪問等のプログラムへの参加呼びかけをしっかりと行う。</p>	<p>Ⅰ. 本科教育課程の見直しについて、来年度も継続して検討することを教務委員会にて確認した。 Ⅱ. 5名7件の追加申請を行い、4名5件の個表が新たに「適」となった。来年度も引き続き指導可能な教員の追加申請を行い専攻科の充実を図る。 Ⅲ. 海外研修（インターンシップ、英語研修、フィールドスタディ、トピタテ）をそれぞれ実施することができた。JICAとの連携のものもあり、アントレプレナーシップを含め、多角的なプログラム展開ができた。今後は連携先を広げるとともに、プログラム内容やコンテンツ開発を進める。あわせて専任教員の負担軽減も視野に準備を進めたい。</p>
<p>①-1-2 Ⅰ. 産学連携センター、社会連携センター、キャリア支援室を中心として、地域企業との連携教育プログラムである課題解決型インターンシップ（MIPPEプラス）を実施する。 Ⅱ. 専攻科特別実験において、地域企業との連携教育プログラムである「地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム"iR-MIPPE : Ibaraki Regional Mutually Inductive Problem-solving Practical Education Program"」の実施を継続する。その中で、専攻科生の課題解決能力を更に養うため、地域で活動している方々を講師に招き講習会を実施する。 Ⅲ. 学生の海外派遣（海外インターンシップ、交流イベント等）を通して、海外の動向を意識しながら、将来のビジョンを描くことができるように、研修プログラムの計画・開発を現地の教育機関と連携して企画・実施する。 Ⅳ. 学生の創造的な力を育むために、地域の企業や公的機関が持つ技術的課題に取り組む課題解決型インターンシップ（MIPPE、MIPPEプラス）を今年度も実施する。また、学生団体「メディアデザインラボ（MDL）」の活動として、地域企業等のニーズに応じた課題に対し、他者と協働しながら実践的・創造的に取り組むことで、企業への理解を深めるとともにアントレプレナーシップの醸成を図る。これらの学生活動の成果発表の場として本校主催の科学イベント「アソビサイエンス」を開催する。上記の取り組みを推進するために、茨城工業高等専門学校連携企業会（PRIME企業会）との連携を強化し、活動資金の支援を受けるとともに、地域で活躍する企業と学生の交流の機会を創出する。</p>	<p>Ⅰ. 産学連携センター、社会連携センター、キャリア支援室等の協力のもと、行政（茨城県、ひたちなか市）、障害者福祉事業者（日立市）、企業（水戸市）からテーマをいただき、課題解決型インターンシップ（MIPPEプラス）を実施した。 Ⅱ. 専攻科特別実験において、2名の外部講師による講習会（4月、5月、10月、12月）を実施した。iR-MIPPEの成果報告会を2月5日開催し、各班の報告に対して外部講師や協力企業から講評をいただいた。来年度も引き続き実施する。 Ⅲ. これまでの海外研修にJICAなどの機関との連携を開始した。これにより、幅広くかつ多角的な海外研修プログラムを進めることができるようになった。今後も、魅力あるこれまでの海外研修にJICAなどの機関との連携を開始した。これにより、幅広くかつ多角的な海外研修プログラムを進めることができるようになった。今後も、魅力ある海外研修プログラムの整備を進めたい。海外研修プログラムの整備を進めたい。 Ⅳ. 本科・専攻科の全学年が参加できるMIPPEプラスにおいて、県内の企業、福祉団体、行政機関等の協力を得て実施し、37名の学生が実際の社会課題の解決に取り組んだ。メディアデザインラボ（MDL）の取り組みとしては、茨城県警やSoftbank社等の協力を得て、それぞれの現場の方々との交流を取りながら実践的な課題解決に取り組んだ。これらの活動は、茨城工業高等専門学校連携企業会（PRIME企業会）から活動費の支援を受けて実施された。「アソビサイエンス」の取り組みとして、茨城県内の行政機関や研究機関と連携して県央・県北エリア5か所で開催して、学生が研究、PBL実験、課外活動で製作した成果物を展示し、地域の方々に科学技術の魅力を伝える活動を行った。県南エリアでは、つくば市の大型商業施設にて3/28(土)にアソビサイエンスを実施予定である。</p>
<p>①-2 茨城大学との連携による定期講演会である先端科学技術講演会を実施し、本校の学生及び教員の最新技術への関心を高め、教育・研究の高度化を図る。また、専攻科1年生を対象とした茨城大学工学部を訪れて研究されているものを実際に見て回る研究室ツアーを検討する。</p>	<p>先端科学技術講演会を3回（6月、10月、12月）実施した。また、専攻科1年生を対象として茨城大学工学部見学と企業見学を企画し9月に実施した。来年度も引き続き実施する。</p>
<p>②-1 海外の教育機関との交流協定において、単位認定制度の整備や単位互換協定の要素に関する内容を整え、相互に学生が行き来しながら単位も取得でき、将来的には卒業後の編入も見据えた環境整備を目指す。海外留学や海外インターンシップ、学生交流を推進し、学生のグローバルマインド活性化を促せるような環境作りを行う。アントレプレナーシップ関連では、海外での企業やJICA、JETRO等の取り組みとともに現地でのニーズを反映した技術動向を学ぶことを通じて、技術分野のひろがりなどを体系的に実感できるような研修内容（オンキャンパス、オフキャンパスいずれも）を企画実施する。</p>	<p>雲林大学（台湾）との交流協定締結を実施し、本校学生の海外インターンシップ先の開拓および編入先の選択肢としても新たに追加することができた。 今後は関連の活動と、学生の編入に関する支援・指導も充実させたい。</p>

2025年度 年度計画	実績報告
<p>②-2</p> <p>オンライン英会話やTOEICなどの英語の試験の受験など、外国語学習の励行と指導サポートにも力を入れ、海外でも実践的にコミュニケーションができるように、オンキャンパスでの学習活動働きかけを強化する。</p> <p>海外研修に参加した学生の報告会やアドバイスを通じて、後に続く学生の意識改革を促す。また、海外からの短期留学生など海外からの訪問者と交流できる場をより多くもつることに、オンキャンパスで多くの学生に興味関心を持ってもらえるような環境作りを目指す。地元の自治体の国際交流の部署との協働を深めるとともに、地域在住の外国人や近隣の大学（茨城大、筑波大など）の留学生との交流を行い、日本国内でも国際感覚を高めることができるように、さまざまなアクティビティを企画実施していく。</p>	<p>オンライン英会話の導入を継続的に実施し、学生および教職員の英語学習の支援を進めた。</p> <p>地元自治体との連携プログラムを増やし、本校学生（留学生含む）の社会活動の幅を広げることができた。</p> <p>グローバルPBLでも、社会実装等を目指した授業内容で取り組み、学生の理解や興味喚起を高めることができた。</p> <p>今後も継続的なアップデートを進めていきたい。</p>
<p>③-1</p> <p>各種競技大会、コンテスト等への参加については、指導を行なう教員や関係委員会等と意思疎通を図り、参加を希望するの学生に対して積極的に支援を行なう。また、高専ロボコンや高専パソコン等各種コンテストに出場するチームに対しては、できる限り予算面で支援を行なう。さらに、高専ロボコン等への参加のために必要となる交通費や宿泊費について、後援会と連携し支援していく。</p>	<p>各種コンテスト等の参加について、相談があった際には可能な限り支援するよう対応している。高専ロボコン地区大会、高専パソコン全国大会参加の交通費や宿泊費についても、後援会と連携し支援した。</p>
<p>③-2</p> <p>I. ボランティア活動は社会貢献として単位化しており、学生のボランティア活動を継続して支援する。</p> <p>II. 学生のボランティア活動について、学生会などを通して身近な小さなボランティアの実践（例えば献血等）を呼び掛けるなど、ボランティアへの参加奨励を行なう。顕著な活動については学生表彰規則による表彰を行うなどとして、ボランティア活動への参加を奨励する。</p> <p>III. 海外ボランティアも視野に入れ、現地の地域問題（環境や貧困等）などについても見聞を深め、それについて討議するようなアクティビティを企画・実施する。</p>	<p>I. MIPPEプラスに参加する学生のうち、社会貢献の単位認定を希望する学生について、必要書類を提出し教務委員会の審議を経ることで、単位を認定した。</p> <p>II. 12月17日（水）に献血を実施予定、学生会を通じて、献血への協力を呼び掛けるなどを行った。また、学生会有志がひたちなか市福祉協議会の呼びかけに応える形で、12月9日（火）～12月11日（木）の昼休みに、歳末助け合い募金の募金活動を行った。</p> <p>III. 英語研修（フィリピン）では、ゴミ山をたずね、そこで生活する人々との交流を行い、社会問題やライフスタイルについても見聞を深めることができた。</p>
<p>③-3</p> <p>今年度は、グローバルキャンプの実施にむけて海外の教育機関との連携に合わせ、第2ブロック内の学生（日本人および留学生）への参加促進を行いながら企画・実施を進める。グローバルキャンプ、タイ高専1ヶ月研修、サマーキャンプ等の技術・文化・国際等多角的な国際交流プログラムを通じて、学生のグローバルマインドの涵養とグローバルエンジニア育成をめざす。</p>	<p>日本語サマーキャンプ、グローバルキャンプ、タイ高専1ヶ月研修、いずれにおいても、訪問学生と本校学生との有意義かつ思い出深い内容として実施することができた。相互のグローバルマインド涵養にも大いに資する、充実した者となったが、今後も継続的に実施できるようにスタッフ構成や準備プロセスを良く整えていきたい。</p>
<p>(3) 多様かつ優れた教員の確保</p>	
<p>①</p> <p>コミュニケーション能力が高く、社会性豊かで優れた教員を確保するため、採用面接等の評価に工夫を行う。また、専門科目担当教員の応募資格を博士の学位を有するものを原則として公募を行う。</p>	<p>一般教養部1名、化学・生物・環境系2名、電気・電子系1名、情報系1名の教員の公募を行った。化学・生物・環境系の1名は8月に着任し、一般教養部1名の教員を令和8年4月着任予定で採用を行った。採用選考に当たっては、面接時の評価項目の中に、組織の中での活動、校務への意欲、協調性・適応力等の項目を設けて人物像を確認するようしており、今年度もこれに基づき実施した。また、公募の際には、女性優先公募を原則とし、専門科目担当教員の応募資格については、博士の学位を有する者を原則として行っている。</p>
<p>②-1</p> <p>クロスアポイントメント制度の案内を行い積極的な導入を推進する。</p>	<p>クロスアポイントメント制度の概要について、グループウェアに掲載して周知を行っている。</p>
<p>②-2</p> <p>民間で活躍する人材の積極的な活用を推進する。</p>	<p>専門科目等で民間の方に非常勤講師として授業を担当してもらい、教育の高度化を図っている。</p>
<p>③</p> <p>出産・育児・介護の支援制度や同居支援プログラム、女性研究者支援プログラムについて周知徹底を図り、制度の利用を促進する。</p>	<p>同居支援プログラムに係る人事交流についての募集をメールや学内グループウェアの掲示板でアナウンスした。</p>
<p>④</p> <p>I. 教員公募をする際に、外国人を日本人と区別なく採用できるように公募書類を工夫する。</p>	<p>I. 公募要領の応募資格に「日本語を母語としない者にあつては、授業、担任等の業務に支障のない日本語能力のある方」を加えて、外国人を日本人と区別なく募集している事を強調した。</p>
<p>⑤</p> <p>国立高等専門学校・両技術科学大学間の教員人事交流を推奨する。また、人事交流終了後も交流が可能な事項について継続的に交流を続ける。</p>	<p>人事交流終了後も派遣先と研究などの交流を継続的に続けている。</p>
<p>⑥</p> <p>I. 教員の学生指導や教育・研究活動の向上を図るためのFD講習会等を実施する。さらに、専門機関や他の教育機関が実施するFDセミナー等については教員に周知し参加を推奨する。</p> <p>II. 学生の海外研修や関連の国際的なプログラム実施に際し、引率や指導に関わる教職員は、現地での教職員との意見交換や現地視察などを通じて国際的な見聞を深め、自己のFD/SDにつなげられるよう、プログラム内容の拡張/アップデートを行う。</p>	<p>I. 生成A Iの利活用推進を目的として、7月2日に令和7年度科学研究費助成事業講習会、7月29日に生成A I活用研修を実施した。専門機関や他の教育機関が実施するFDセミナー等については学内グループウェア上で周知した。</p> <p>II. F D活動に於いても、当該の職員の能動的かつ積極的な取り組みにより、本校および他高専での活動が大変高く評価された。このような活動とあわせて、本校でのグローバル関連のプログラム活動がより高められたことは意義深い。今後もこのような継続的な取り組みがなされるように、体制を整えていきたい。</p>

2025年度 年度計画	実績報告
<p>⑦</p> <p>自己点検・評価委員会において、教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる表彰候補者を推薦し、表彰を行う。</p>	<p>授業評価アンケート結果に関するフィードバック報告書と学生の成長にいい影響を与えた教員調査の記載内容に基づいて、自己点検・評価委員会から3名の表彰候補者を推薦し、表彰を行った。</p>
(4) 教育の質の向上及び改善	
<p>①</p> <p>I. 高専間の単位互換制度については教員（授業提供側）および学生（受講側）へ案内する。カリキュラムについては改訂版MCCを意識しながら見直しを進めていく。</p> <p>II. プロボスト室を立ち上げ、教学IRに基づいて、学生の学修成果等を評価・検証し、教育改善につなげるためのアセスメントプランを定め、教育活動の改善活動を推進する。</p>	<p>I. 高専間の単位互換制度については教員（授業提供側）および学生（受講側）へ案内した。カリキュラムについて、改訂版MCCを意識した見直しの検討を継続することを、教務委員会にて確認した。</p> <p>II. プロボスト室にて、本学のアセスメントプランを策定し、その内容をホームページを通して広く周知した。</p>
<p>②</p> <p>令和8年度に受審する高等専門学校機関別認証評価に向けて準備を進める。今年度、新しい評価システムに基づいて自己点検・評価を実施する。</p>	<p>令和8年度に受審する高等専門学校機関別認証評価に向けて準備を進めている。自己点検・評価シートに基づいて自己点検・評価を行っている。自己点検・評価委員会によるプレ審査と第1回、第2回の審査を実施した。</p>
<p>③-1</p> <p>I. 本科生の夏季休暇中の課題解決型インターンシップ（MIPPEプラス）を実施する。また、高専STEAM教育において、企業や自治体、教育機関等との連携を支援する。</p> <p>II. 専攻科特別実験において、域企業との連携教育プログラムである「地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム"iR-MIPPE : Ibaraki Regional Mutually Inductive Problem-solving Practical Education Program"」の実施を継続し、課題解決型学習（PBL）を推進する。</p>	<p>I. 夏季休暇中の課題解決型インターンシップ（MIPPEプラス）を実施した。また、高専STEAM教育において、企業や自治体、教育機関等との連携を支援した。</p> <p>II. 専攻科特別実験において、iR-MIPPEを実施した。成果報告会を2月5日に特別実験の授業内で開催し、各班の報告に対して外部講師や協力企業から講評をいただいた。来年度も引き続き実施する。</p>
<p>③-2</p> <p>課題解決型インターンシップを本科生は夏季休暇中の集中講義（MIPPEプラス）として、専攻科では特別実験（MIPPE）において実施する。また、メディアデザインラボでのMIPPEやMIPPEプラス等の早期STEAM教育や高専STEAM教育の取組の成果を取りまとめ、事例として周知する。</p>	<p>「MIPPEプラス」において、9月上旬の夏季休業期間中、県内の企業、福祉団体、行政機関等の協力を得て実施し、37名の本科生・専攻科生が参加し、実際の社会課題の解決に取り組んだ。</p> <p>「アソビサイエンス」の取り組みとして、茨城県内の行政機関や研究機関と連携して県央・県北エリア5か所でイベントを実施して、学生が研究、PBL実験、課外活動で製作した成果物を展示し、地域の方々に科学技術の魅力を伝える活動を行った。県南エリアでは、つくば市の大型商業施設にて3/28(土)にアソビサイエンスを実施予定である。</p>
<p>④</p> <p>長岡技科大との人材交流活動や豊橋技科大との連携共同研究等の取組に加え、新たな教員の研修、国立高等専門学校と技術科学大学との間の連携教育、共同研究、人事交流等があれば積極的に推進する。</p>	<p>豊橋技科大の教員との協議（12月20日）を実施し、教育、研究面での連携、新たな教員の研修、人材発掘・育成に関する意見交換を行った。これらが技科大・高専の双方にとって重要な課題と認識していることが確認でき、次年度に具体的な取り組みが行える見通しを立てた。</p>
(5) 学生支援・生活支援等	
<p>①</p> <p>I. 入学手続き時提出の学生健康管理調査書で障害・精神面での不安（精神科等受診、通院）等を申告した保護者（希望者）とカウンセラーの面談を実施、面談結果を踏まえ、支援の必要の有無、支援チームの立ち上げ等についてソーシャルワーカーも交えて検討、個に応じた対応を行う。</p> <p>II. 教職員向けの研修会等を実施する。 1) 教職員に対し、学生の自殺予防に関する研修会を実施する。2) 教職員に対し、神経発達症等に関する研修会を実施する。</p> <p>III. 「こころと体の健康調査（自殺予防のためのチェックリスト）」アンケートを実施、結果をもとにカウンセリングなどの個別対応を行う。</p> <p>IV. メンタルヘルスに関するカウンセリング等を実施し、必要な対応を行う。 1) 1年生に対するDV予防に関する講演会、3年生に対するメンタルヘルス講習会を実施する。2) 留学生の中の希望者に対して、カウンセラー面談を実施する。3) 必要に応じて、ソーシャルワーカーが関係部署との情報共有や外部機関等との連携を図る。</p> <p>V. 担当教職員が外部研究会等に参加し、メンタルヘルス・神経発達症等に対する支援体制の充実を図るとともに、他の教職員向けに研修会等への参加を呼び掛ける。</p>	<p>I. 入学手続きの際に入学者健康管理調査書を提出してもらい、調査書の内容に基づき特に精神面において問題をかかえていると思われる学生を抽出し、入学前の3月末にスクールカウンセラーと学生本人・保護者との個別面談を実施した。入学後も支援が必要な場合は、定期的に学生相談員等が学生本人・保護者と面談を行っており、必要に応じてパリアフリー支援室（支援チーム）を設置している。現時点において、低学年2名の支援チームを立ち上げる予定である。</p> <p>II. 1) 6月3日（火）に発達支援セミナーを開催した。 2) 8月25日（月）に自殺防止セミナーを開催した。欠席した教職員のためにセミナーの動画を配信し、資料を掲載した。</p> <p>III. 4月に全学生に対してこころと体の健康調査を行い、配慮を要すると判断された学生や面談を希望する学生には学生相談員が面談を行った。</p> <p>IV. 1) 1年生に対するDV予防セミナーを11月27日（水）に開催する予定である。3年生に対するメンタルヘルスセミナーを12月3日（水）に開催する予定である。 2) 12月に案内を送付する予定である。 3) 12月～1月に案内を送付する予定である。</p> <p>V. 9月1日（月）～2日（火）、第22回全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修に出席した。随時、学生課から研修会等のお知らせを行っている。研修会等で得た知見や情報を教職員と共有している。</p>

2025年度 年度計画	実績報告
<p>②</p> <p>校内各所の掲示板及びホームページを利用し、学生及び保護者に対して各種奨学金制度についての情報を提供する。また、自治体、産業界等からの奨学金等についても掲示板やホームページ等で周知を図り、希望する学生に個別対応を行うことなどによって、奨学金制度を有効に活用してもらえるように積極的に情報を提供する。</p>	<p>学生課学生支援・寮務係にて随時対応している。</p>
<p>③</p> <p>I. キャリア支援室および関連部署の連携の下、入学から卒業に至るまでの体系的なキャリア教育を実施する。企業研究会や大学等説明会などの各種キャリアイベントの実施、就職・進学情報の収集・提供、学生からのキャリアに関する相談の対応、などにより、キャリア支援の充実を図る。</p> <p>II. 卒業生・修了生を対象に「キャリア教育・キャリア支援に関するアンケート」を実施する。</p> <p>III. 本校同窓生を含む高専卒業生等の協力を仰ぎ、就職、進学に繋がるキャリア支援に取り組む。</p>	<p>I. キャリア支援室および関係部署の連携のもと、入字が卒業までを見通しに体系的なキャリア教育を実施した。学年段階に応じたキャリア形成支援および進路選択支援を行い、工場見学。インターンシップイベント、企業研究会、進学説明会、労働法講座等を実施するとともに、年間を通して500件を超えるキャリア面談を実施し、個別のニーズに合わせた情報提供・支援を実施した。</p> <p>II. 卒業生・修了生を対象に、アンケート調査を実施中である。</p> <p>III. 本校卒業生をキャリア講演会の講師として招き、就職や進学に対する考え方や実際の体験談に関するキャリア講演会を3回実施し、計205人の学生が参加した。受講アンケートでは内容の理解度が96.6%であり、先輩の経験に触れる機会を通して、学生のキャリア形成意識の向上に寄与した。</p>
<p>1. 2 社会連携に関する事項</p>	
<p>①</p> <p>I. ResearchMapの情報更新を促し、国立高専研究情報ポータル及び本校ホームページを通じて、全教員の研究成果を広く公開する。</p> <p>II. 茨城高専研究シーズ集において、研究シーズのみならず各教員の持つ出前授業や公開講座のコンテンツについても記載する項目を新たに設け、産業界だけでなく地域社会の幅広いニーズとのマッチングを図る。研究成果や地域社会と連携した成果について情報発信するために、広報戦略室と協力し、キーワード検索のみならず、ChatGPT等AIによるリサーチの対象にもなりやすう本校ホームページでの掲載の仕方を検討する。</p>	<p>I. 副校長（総務）および研究協力・地域連携係より全教員に対しResearchMapの情報更新の促進がなされている。</p> <p>II. 研究シーズ集の新様式として、産学連携（研究概要、共有機器等）の他に社会連携（出前授業、公開講座等）の内容について記載する項目を新規に設けた。各教員から提出された情報の取り纏めを行っており、次年度初頭に公開できる見込みである。</p>
<p>②</p> <p>科研費・競争的外部資金の保有数を増加させるために、教員の研究企画力を向上する取り組みを行う。具体的には、学内共同研究に繋がる研究者間のコミュニケーションを円滑にするための交流イベントの実施や、共同研究や受託研究の相談として地域から寄せられるニーズ情報の共有などを行うコミュニティを学内に構築することを検討する。</p>	<p>科研費講習会（7月2日）および研究交流会（8月6日）をそれぞれ実施し、教職員間で研究活動に関する情報共有などが行われるようになった。成果として、今年度申請した5件の科研費が新規採択され、過去数年と比較して約2倍の成果となった。</p>
<p>③-1</p> <p>情報発信機能を強化するため、昨年度に引き続き報道機関等との関係構築に取り組むとともに、積極的に情報発信を行う。高専機構が情報発信先として契約するPR TIMESに掲載することが相応しいニュースがあれば積極的に利用する。</p>	<p>R8.3月末時点で、地元メディアに対しては6件、PR TIMESに対しては4件のプレスリリースを行った。</p>
<p>③-2</p> <p>I. 産学連携や社会連携の取組や学生活動等の活動状況や成果の情報について、広報戦略室の協力を得ながら本校ホームページや報道機関を通じて社会に発信する。</p> <p>II. 報道状況は引き続き広報戦略室より法人本部へ報告する。</p>	<p>I. 学校ホームページに「研究成果」の特設項目を設置し、教員の研究成果について一般向けの情報発信を開始した。また、研究活動について企業へ発信するために、経営者協会茨城支部（7月18日、12月12日）とPRIME企業会（6月19日、3月3日）を対象とした研究シーズ発表会を実施した。</p> <p>II. 報道実績（プレスリリース）は逐次機構本部へ報告している。</p>
<p>④</p> <p>小中学生を対象とした早期STEAM教育を地域の教育委員会と連携して実施し、理工系人材の発掘・育成を推進する。</p>	<p>校内で実施した「おもしろ科学セミナー」や県内各地で実施した「アソビサイエンス」のほか、ひたちなか市と大洗町の小中学校での理科授業・クラブ活動の支援として出前授業を実施し、地域の子供たちが科学技術に触れる取り組みを多数実施した。また、茨城県水戸生涯学習センターおよび県央市町村の教育委員会と連携し、不登校の子供たちを対象とした「ほっとステーション」にも参加してイベントを実施した。</p>
<p>1. 3 国際交流等に関する事項</p>	
<p>①</p> <p>I. 本校で企画している海外研修内容には、SDGsをふくめた海外でのフィールドスタディの導入を計画しており、国際協力に関する部分についてはJICAや現地の関連団体との協働できるプロジェクト実施を目指す。現地のニーズやそこで活かせる技術シーズを、学生と教員ともに取り組めるような内容として企画する。</p>	<p>I. グローバルキャンプでは、タイ高専とUNSRAT(インドネシア)からの学生12名を招いて、本校学生と合わせて総勢30名の学生で、盛大に実施することができた。防災をテーマに相互に意見交換、プレゼンテーションを実施し、国を超えて理解や交流を深めることができた。今後も状況を見ながら、あらたなコンテンツ開発を進めて準備していきたいと考えている。</p>
<p>①-6</p> <p>現在本校が交流事業を行っている関係先(フランス、韓国、シンガポール、マレーシア、フィリピン)とのそれぞれの活動内容において、グローバルキャンプのような技術面/文化面での交流プログラムや研修プログラムを実施する。これらの取り組みを通じて、K O S E Nとしてのポテンシャルや実質的な取り組みを広く海外に情報発信する。</p> <p>在外研究など中長期の教員の海外派遣による現地での研究教育活動を通じて、K O S E Nとしての取り組みの充実とレベルアップを進める。</p>	<p>UNSRAT大学(インドネシア)との新たな交流を始めることができた。今後の本校からの海外研修(フィールドスタディ)では、現地の大学を訪ね、交流を深め、相互の学生交流をすすめたい。</p>

2025年度 年度計画	実績報告
<p>③-1</p> <p>今年度は、PCSHSの交流協定更新があるが、ASEANおよびオセアニア地域で交流できる教育機関の開拓を検討し、可能性のある教育機関がある場合は、相互の意見交換や討議を経て手続きを進める。</p> <p>本校では、今年度よりタイ高専からの留学生受け入れ（1ヶ月研修）を実施する。関連して学内外でのグローバルにつながるインターンシップや企業や他団体との協働プロジェクトなど、受け入れ体制の整備・充実をはかる。あわせて、タイ高専およびPCSHSとの交流事業（研修やグローバルキャンプ等）についても精力的に取り組み、学生相互の交流と、教職員のFD・SDを念頭においた相互交流を進める。</p>	<p>PCSHS/タイ高専とは、本校在籍の留学生の支援指導だけでなく、サイエンスフェアやチュータ研修等でも交流を深めることができた。当該の留学生だけでなくそれに関わる日本人学生の活動をより活発なものにするため、プログラム開発に注力したい。</p>
<p>③-2</p> <p>オンライン英会話やTOEICなどの英語の試験の受験など、外国語学習の支援と指導サポートにも力を入れ、海外でも実践的にコミュニケーションができるように、オンキャンパスでの学習活動働きかけを強化する。</p> <p>海外研修に参加した学生の報告会やアドバイスを通じて、後に続く学生の意識改革を促す。また、海外からの短期留学生など海外からの訪問者と交流できる場をより多くもつることに、オンキャンパスで多くの学生に興味関心を持ってもらえるような環境作りを目指す。地元の自治体の国際交流の部署との協働を深めることにより、地域在住の外国人や近隣の大学（茨城大、筑波大など）の留学生との交流を行い、日本国内でも国際感覚を高めることができるように、さまざまなアクティビティを企画実施していく。【再掲】</p>	<p>地元自治体との協働プログラム（サマースクール、国際交流文化祭、英語学習プログラム）および防災に関する協働プログラム（勝田中等学校）、日本語サマースクール等、他校および他団体との連携活動にも注力できた。今後も、本校学生の活動の場を広げられるように、プログラム内容をアップグレードしていきたい。</p>
<p>③-3</p> <p>今年度は、グローバルキャンプ、サマースクール、およびKMILT1ヶ月研修の実施にむけて海外の教育機関との連携に合わせ、第2ブロック内の学生（日本人および留学生）への参加促進を行いながら企画・実施を進める。グローバルキャンプ等の技術・文化・国際等多角的な国際交流プログラムを通じて、学生のグローバルマインドの涵養とグローバルエンジニア育成をめざす。</p>	<p>各プログラムにおいては、前記のように学生の主体的な活動も含めて有意義かつ充実した内容で実施できた。今後も、コンテンツ開発やテーマや課題などにも工夫しながら魅力あるプログラムとアクティビティを実施していきたい。</p>
<p>④</p> <p>第2ブロック拠点校として、ブロック内の留学生の日本語スキル、理数系科目の取り組み状況などを、各校の日本語指導教員、国際交流部署の長、担任教員、および教務、寮務、総務と連携して状況把握・サポート・指導に当たる。定期的なオンラインイベントや長期休み期間の対面型のアクティビティなどを通じて、学生の孤立や挫折のないようにひろいあげを行う。</p>	<p>留学生の学習面、生活面およびキャリアに関して支援指導を行った。これに際しては、第2ブロック内の各校の教職員及び他ブロックにおいても、多くの意見交換や情報共有を行うことができた。合わせて、日本語学習支援も体系的かつ広範囲に実施し留学生支援の充実化を図った。今後もさらなる深化・充実化を進めたい。</p>
<p>2. 業務運営の効率化に関する事項 2. 1 一般管理費等の効率化</p>	
<p>一般管理費等を抑制するため、業務を恒常的に点検して業務の合理化やアウトソーシングを推進するとともに、効率的な執行を図り、経常経費の削減に努める。</p>	<p>寮の教員宿直（事務の当直は廃止済み）の一部及び図書館業務について外部委託を実施し、業務の効率化を図った。</p> <p>また、校長、総務主事と共に定期的に予算執行の確認を行い、月締めの各部署の予算執行状況データを周知して、効率的な執行を促すことにより一般管理費の抑制に努めた。</p>
<p>2. 3 契約の適正化</p>	
<p>競争性の確保を原則としつつ、調達合理化の取組及び調達に関するガバナンスの徹底を実施する。</p>	<p>契約の競争性及び透明性の確保に努め、高専機構調達等合理化計画の取組を実施した。経費節減及び業務効率化を目指して、近隣の茨城大学、筑波大学等との物品、役務等の新たな共同調達の実施の検討を行った。</p> <p>また、11月5日（水）に説明会の開催及び校内グループウェアにおいて、公的研究費等の不正使用、不適切経理の防止について周知・徹底を行い、不祥事発生の未然防止・再発防止を図った。</p>
<p>2. 4 情報通信技術を活用した業務の効率化</p>	
<p>情報システムの整備の一環として、ファイルサーバの更新と容量の拡大を行う。</p>	<p>新ファイルサーバの容量増加を見越し、先行してバックアップ装置の容量増加を完了した。</p>
<p>3. 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画 3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理</p>	
<p>I. 校長のリーダーシップのもと、予算配分方針に基づき学内配分を実施し、戦略的かつ計画的な学校運営を行う。例年通り、昨年度実績予算の半分を4月に配分することで、期末集中防止と効果的な活用を進める。</p> <p>また、学内資源の再配分を戦略的かつ重点的に行う。</p>	<p>I. 校長のリーダーシップのもと、予算配分方針に基づき学内配分を実施し、戦略的かつ計画的な学校運営を行っている。例年通り、昨年度実績予算の半分を4月に配分を行った。期末集中防止と効果的な活用を進めて、学内資源の再配分を戦略的・重点的に行い、校長裁量経費の効果的な執行を行った。</p>
<p>II. 公的研究費の不正使用防止に向けた啓発活動として、コンプライアンス研修等を計画的に実施する。</p>	<p>II. 公的研究費の管理・使用に関する説明会（11月5日）を開催し、その後、公的研究費の管理・使用に関する理解度チェック（11月28日締切）を実施した。</p>

2025年度 年度計画	実績報告
3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加	
<p>技術相談が共同研究につながり相談者が満足できるように、学内マッチングはもちろん、近隣研究機関や他高専に照会をかける等の取組を行う。また他機関から照会された技術相談にも積極的に対応する。また、企業連携組織が立ち上がった際に、技術相談を逃さない相談窓口を設ける。</p>	<p>産学連携センターを独立設置し、共同研究・受託研究・技術相談・寄付金の受け入れに関する相談窓口を整えた。また、連携企業会の参加企業との産学連携を促進するために、研究シース発表会を実施し計7名の教員が研究に関する発表を行った。</p>
3. その他業務運営に関する重要事項	
3. 1 施設及び設備に関する計画	
①	
<p>I. 安全・安心な教育研究環境を確保しながら老朽化した建物等の更新を図り、建築物の定期調査を実施する。</p>	<p>I. 安全・安心な教育研究環境を確保しながら老朽化した建物等の更新を図り、建築物の定期調査を実施した。</p>
<p>II. スロープ未設置の建物があるため、対応設備の設計や工事を進める。</p>	<p>II. スロープ未設置の建物があるため、対応設備の設計や工事を進めている。改修工事に伴い学術総合情報センターにスロープを設置した。</p>
<p>III. 昨年に引き続き合宿施設及び1号館北側の非構造部材の耐震化を推進し、防災機能強化を図る。</p>	<p>III. 合宿施設及び1号館北側の非構造部材耐震化に向けての現状調査を完了した。今年度は予算配分を最適化する過程で工事実施は見送ることとなったが、早期着工に向けた計画を推進した。</p>
<p>IV. 安全衛生の点検管理を行い、実験室等の環境整備、校内の安全を確保する。</p>	<p>IV. 安全衛生の点検管理を年度末までに行い、実験室等の環境整備、校内の安全を確保した。</p>
<p>V. 施設キャンパスマスタープランの更新を検討する。</p>	<p>V. 施設キャンパスマスタープランの更新を行った。</p>
②	
<p>新入生及び教職員の新規採用者を対象に「実験実習安全必携」を配付する。</p>	<p>Googleドライブ経由で、新入生及び新規採用者に対して「実験実習安全必携」を配付した。</p>
③	
<p>I. ジェンダー平等を目指すキャンパス環境形成の一環として、「男子更衣室」の設置を検討する。学内施設における盗撮機器等の調査を行う。</p>	<p>I. 盗撮機器等の調査を夏季休業期間中に行った。</p>
<p>II. 魅力のあるキャンパス環境の形成のため、学生からの要望を把握して環境整備を進める。</p>	<p>II. 学生会と校長との懇談会などで、学生からの要望を把握して環境整備を進めている。学生の居場所が少ないとの意見もあり、7号館裏（新日本電工eng創造スクエア）にベンチやテーブル、椅子を配置するなどの環境整備を行った。</p>
3. 2 人事に関する計画	
(1) 方針	
①	
<p>寮の教員宿直業務の一部及び図書館業務について、引き続き外部委託を実施し、業務効率化を図る。</p>	<p>年度当初から予定どおり、寮の教員宿直の一部、事務宿直及び図書館業務について外部委託し、業務の効率化を図った。</p>
②	
<p>校長のリーダーシップのもと、教員人員配置を戦略的配置を含めて検討していく。</p>	<p>教員任用審査会で、教員人員配置を検討の上、採用を進めている。</p>
③	
<p>校長のリーダーシップのもと、助教等の若手教員の採用を計画的に検討していく。</p>	<p>教員任用審査会で検討の上、採用を進めている。</p>
④-1	
<p>コミュニケーション能力が高く、社会性豊かで優れた教員を確保するため、採用面接等の評価に工夫を行う。また、専門科目担当教員の応募資格を博士の学位を有するものを原則として公募を行う。【再掲】</p>	<p>一般教養部1名、化学・生物・環境系2名、電気・電子系1名、情報系1名の教員の公募を行った。化学・生物・環境系の1名は8月に着任し、一般教養部1名の教員を令和8年4月着任予定で採用を行った。採用選考に当たっては、面接時の評価項目の中に、組織の中での活動、校務への意欲、協調性・適応力等の項目を設けて人物像を確認するようしており、今年度もこれに基づき実施した。また、公募の際には、女性優先公募を原則とし、専門科目担当教員の応募資格については、博士の学位を有する者を原則として行っている。【再掲】</p>
④-2	
<p>クロスアポイントメント制度の案内を行い積極的な導入を推進する。【再掲】</p>	<p>クロスアポイントメント制度の概要について、グループウェアに掲載して周知を行っている。【再掲】</p>
④-3	
<p>出産・育児・介護の支援制度や同居支援プログラム、女性研究者支援プログラムについて周知徹底を図り、制度の利用を促進する。【再掲】</p>	<p>同居支援プログラムに係る人事交流についての募集をメールや学内グループウェアの掲示板でアナウンスした【再掲】</p>
④-4	
<p>教員公募をする際に、外国人を日本人と区別なく採用できるように公募書類を工夫する。【再掲】</p>	<p>公募要領の応募資格に「日本語を母語としない者にあつては、授業、担任等の業務に支障のない日本語能力のある方」を加えて、外国人を日本人と区別なく募集している事を強調した。【再掲】</p>
④-5	
<p>男女共同参画及びダイバーシティ関係の研修会等の案内の周知を行い、積極的な参加を促す。</p>	<p>12月17日に特定非営利活動法人Rebitより齋藤 洋一氏を講師に迎えジェンダー講演会を、3月2日には大和田・谷田部法律事務所 弁護士 谷田部 亘 氏を講師に迎えハラスメント防止講演会を実施した。</p>

2025年度 年度計画	実績報告
<p>⑤</p> <p>教職員の他機関との交流を推進していく。また、外部で開催する各種研修会へ積極的に参加し、スキルアップの一助とする。</p>	<p>東京地区及び関東・甲信越地区実践セミナー（財務の部）へ職員1人、同（人事・労務・安全管理の部）へ職員3人、公文書管理研修会へ職員6人、IT人材育成会へ職員1人を派遣した。</p> <p>その他、国立高専機構本部等主催の新任教員研修へ教員6人、中教員研修へ教員2人、新任職員研修へ職員1人、東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会へ職員1名が参加した。</p>
<p>(2) 人員に関する指標</p>	
<p>適切な人員配置に取り組むとともに、先進的な教務システムのアップデートの検討を進めるなど業務効率化を図る。</p>	<p>令和7、8年度の2か年で最新版の教務システムへアップデートする計画を立て、今年度新教務システムの基本部分及び新教務システムサーバ2台を導入した。令和8年度に茨城高専仕様部分の導入を行い、令和9年度から新しい教務システムを稼働させる予定である。</p> <p>また、高度化推進経費事業「学校改善事業」の採択により、証明書発行機から定期健康診断証明書及び通学証明書を発行できるようにした。令和8年度から本格的に稼働させ、学生の書類発行待ち時間の減少及び事務職員の書類作成業務負担軽減を達成する。令和8年度は、デジタル学生証を1年生に導入して、点呼等によらない出席管理及び登校状況の把握を行う。</p>
<p>3. 3 情報セキュリティについて</p>	
<p>①</p>	
<p>Windows等各種ソフトウェアのセキュリティサポート期限切れに伴う対応を行う。</p>	<p>情報セキュリティ監査の結果を受け、年度を通して継続的に対応を行った。</p>
<p>②</p>	
<p>機構本部主催の情報担当者研修会等へ参加し、人材の育成とその確保に努める。</p>	<p>令和7年度IT人材育成研修会（12月）において技術職員1名が参加した。</p>
<p>③</p>	
<p>今年度行われる情報セキュリティ監査の結果を踏まえ、指摘事項に対して必要な対策を講じる。</p>	<p>月に行われた情報セキュリティ監査の結果について、指摘事項や助言を受けた点の改善を行っており、教務システムが高専機構で定めたパスワードの基準に対応できないための更新も進めている。</p>
<p>④</p>	
<p>教職員に対してセキュリティーe-Learning、セキュリティートップセミナー、インシデント対応訓練等を実施し、情報セキュリティに対する更なる意識向上を図る。</p>	<p>機構本部からの連絡により、情報セキュリティ教育（e-learning）については8-9月に計画通り実施した。結果として特に問題はないと判断しており、今後も継続する。インシデント対応訓練についても10月-11月に実施済みである。</p>
<p>⑤</p>	
<p>高専機構が推進、実施する情報セキュリティ対策等について理解を深めるとともに、その着実な実施に努める。</p>	<p>月に情報戦略推進本部連絡会、8月には情報セキュリティトップセミナーに参加し、今後も継続して取り組む。</p>
<p>⑥</p>	
<p>高専機構CSIRTから提供されるインシデント内容及びインシデント対応の情報共有を行うとともに、初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」の周知を継続して行い、情報セキュリティインシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発を実施する。</p>	<p>機構本部からセキュリティ関連の注意喚起が出た際には総務係から全教職員に周知を行った。今後もセキュリティについて連絡があり次第対応を行う。</p>
<p>4. 4 内部統制の充実・強化</p>	
<p>①</p>	
<p>国立高専機構校長・事務部長会議等に出席し、国立高専機構全体の課題及び方針を学内で共有した上で、学校運営の強化を図っていく。</p>	<p>国立高専機構校長・事務部長会議等での内容については、随時、校長より運営会議、教員会議等で報告のうえ、グループウェアに掲載し周知を行った。</p> <p>また、定期的に校長連絡会、事務MTGを開き、学内の課題を共有している。</p>
<p>②-1</p>	
<p>理事長と校長の面談に基づく本校の課題等について、学内で共有の上、課題の解決を行っていく。</p>	<p>理事長ヒアリング時に使用した資料を教員会議で共有し、本校の課題に関する共通認識を図り、解決に向けた取組を進めた。</p> <p>また、機構本部より理事や参事等を招き、本校の課題等を相談する機会を持ち助言を受けている。</p>
<p>②-2</p>	
<p>法人本部が作成した、コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用し、教職員のコンプライアンスの向上を図る。</p>	<p>機構本部が作成したコンプライアンスに関するセルフチェックリストを全教職員対象に実施した。次年度以降も全教職員にコンプライアンスの徹底を求めていく。</p>
<p>②-3</p>	
<p>重大事案に発展する可能性が極めて高いと思われる事案について、迅速に機構本部と情報共有し、組織的な対応を行う。</p>	<p>随時対応</p>
<p>③</p>	
<p>高専相互会計内部監査を引き続き実施し、監査体制の充実を図る。なお、監査により発見した課題については情報を共有し、速やかに対応を行う。</p>	<p>機構本部が主導して行う高専相互会計内部監査については、宇部高専が監査校となりオンラインで12月22日（月）に実施した。</p> <p>また、毎年継続して行っている福島高専との相互会計内部監査は、今年度も1月23日（金）に実施した。</p>
<p>④</p>	

2025年度 年度計画	実績報告
<p>「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」及び「公的研究費等不正防止計画」に基づく取組を実施する。</p> <p>また、教職員に対し、研修や校内グループウェア等の場において公的研究費等に関する不正使用を注意喚起し、不適正経理の防止に努める。</p>	<p>今年度新たに、生成AI活用推進のための「生成AI活用ガイドライン」や、アセスメントプラン等を策定した。各種規程、ガイドライン、マニュアル等については、随時見直しを行っている。</p> <p>外部資金を獲得した教員に、不正使用等、関連する規則の確認を行い、企業との関係等の確認に務めた。また、11月の教員会議で、公的研究費等の不正使用、不適切経理の防止について周知した。</p>